

1 位置と地勢

下館市・関城町・明野町・協和町の1市3町は、東京から北へ約70 km、茨城県の西部に位置し、合わせて、東西15 km、南北20 kmで、面積は205.3 km²となります。

新市の南は下妻市及び日本を代表する科学技術中枢都市「つくば」を含むつくば市に隣接し、東は桜川市に、西は結城市、八千代町及び栃木県小山市に、そして北は栃木県真岡市に隣接することになります。

地形はおおむね平坦で、鬼怒川・小貝川などが南北に貫流し、肥沃な田園地帯を形成しています。標高は、約20mから60mです。

北部には、阿武隈山系の一部につながる丘陵地帯があり、その標高は約200mとなっています。

気候は太平洋型の気候であり、四季を通じて穏やかです。

道路体系は、東西方向に国道50号、南北方向に国道294号が整備され、この2路線が交差した部分を中心として、石岡市方面やつくば市方面、古河市方面に、放射状に県道が整備されています。

鉄道については、東西にJR水戸線が走り、下館駅を起点として、南は取手まで関東鉄道常総線、北には茂木まで真岡鐵道真岡線が運行されています。

2 1市3町の概要

(1) 下館市

下館市は、JR水戸線や真岡鐵道真岡線、関東鉄道常総線が交わり、さらに国道50号や294号も交わるなど交通の要衝に位置し、古くから物資の集散地、商業都市として発展してきました。また、工業団地の造成により工業集積も進み、周辺から多くの就業者が通勤するなど、茨城県西部の中核都市として地域経済の中心的役割を果たしています。農業では、市域の約86%が農業振興地域に指定され、米・野菜・イチゴ・梨などの栽培が盛んです。

さらに、「伝統と品格ある関東の雄都としての都市づくり」を基本理念とし、他に誇れる生活先進都市の実現に向けた各種事業を進めてきました。

(2) 関城町

関城町は、東西を鬼怒川と小貝川に挟まれた位置にあり、これら河川流域に広がる肥沃な土地に恵まれ、首都圏に豊かな農産物を送り出す都市近郊型農業地域として発展してきました。特に「梨」は江戸時代末期から栽培され、地域のブランドとしての知名度があります。

また、工業団地造成により企業立地が進んでいます。

まちづくりの柱として生涯学習をテーマに、一人ひとりの個性が光る「田園都市せきじょう」の実現を目指したまちづくりを進め、生涯学習活動をはじめ住民参加のまちづくり優良町として大臣表彰を受けています。

(3) 明野町

明野町は、筑波山を間近に望み、東に桜川、西に小貝川が流れる水と緑豊かな田園都市です。「ひとが元気、まちが元気、ともに歩むまち あけの」を基本目標としたまちづくりを進め、田園環境を活かした花いっぱい運動では、夏のひまわり畑や秋のコスモスロードに、周辺はもちろん県外からも多くの人々が訪れています。また、温泉施設を備えた「あけの元気館」も健康づくりや福祉サービスの拠点としてにぎわいを見せています。

また、文化のまちづくりとして大臣表彰を、ごみ減量化推進の優良町として大臣選定を受けています。

(4) 協和町

協和町は、北端部に阿武隈山系から連なる丘陵地がありますが、全体としては平坦で肥沃な耕地が広がる田園都市として発展してきました。

特に、施設園芸により生産される「こだまスイカ」や「きゅうり」は、県の銘柄産地指定を受けており、町の特産となっています。

また、国指定史跡の新治廃寺跡^{*}や新治郡衙跡^{*}などの文化財も多く、歴史の町としての顔も持っています。さらに、脳卒中半減対策事業などの健康づくり対策に取り組み、保健事業推進の優良町として大臣表彰を受けています。

第1章

第2章

第3章

第4章

第5章

第6章

> 1

> 2

> 3

> 4

> 5

> 6

第7章

第8章

-
- ^{*} 新治廃寺跡：奈良時代に建立された大寺跡。金堂跡、東西両塔跡、講堂跡などの土壇、回廊や経蔵などの遺構がある。
 - ^{*} 新治郡衙跡：奈良時代の常陸新治郡の郡衙（今の役所）の跡。遺構は4群、51棟を数え、広さ21ヘクタールに及ぶ。

3 人口と世帯

令和2年の国勢調査によると、新市の人口は100,753人、世帯数は37,491世帯となっています。

65歳以上の老年人口は32,004人で、割合（高齢化率）は32.1%となり、県平均の29.9%と比べるとやや高くなっています。

◆ 年齢別人口構成

（単位：人、％）

区 分	世帯数	人口 (人)	年少人口 (0～14歳)		生産年齢人口 (15～64歳)		老年人口 (65歳以上)	
			人口	割合	人口	割合	人口	割合
新 市	37,491	100,753	11,040	11.1%	56,749	56.9%	32,004	32.1%
茨城県	1,184,133	2,867,009	333,741	11.9%	1,638,165	58.3%	839,907	29.9%

資料：令和2年国勢調査

注1：総数には年齢不詳を含む。

注2：年齢別人口の割合は、総数から年齢不詳を除いて算出したもの。

また、就業者数は48,667人で、産業別にみると第1次産業就業者が7.5%、第2次産業就業者が35.1%、第3次産業就業者が57.4%となっており、県平均と比べると第1次産業や第2次産業就業人口の割合が多くなっています。

◆ 産業別就業人口

（単位：人、％）

区 分	人口	就業者数	就業者率	第1次産業		第2次産業		第3次産業	
				人口	割合	人口	割合	人口	割合
新 市	100,753	48,667	48.3%	3,516	7.5%	16,546	35.1%	27,081	57.4%
茨城県	2,867,009	1,362,944	47.5%	69,281	5.2%	380,140	28.8%	872,083	66.0%

資料：令和2年国勢調査

注1：就業者数には分類不能の産業を含む。

注2：産業別人口の割合は、就業者数から分類不能の産業を除いて算出したもの。

4 関連計画や周辺の状況

(1) 関連計画

首都圏整備計画では、国際競争力の強化を図りつつ、一極集中の是正を図るための面的な対流の創出が新市を含む北関東地域で見られるとあり、北関東自動車道をはじめ、常磐道や東北道、関越道、上信越道などの広域的なネットワークを活用した多面的な流れが形成され、「北関東新産業東西軸」ともいべきエリアへと転換できる新たな可能性があるとされています。

第2次茨城県総合計画～「新しい茨城」への挑戦～では、新市を含む地域は県西ゾーンに位置づけられており、伝統的工芸品や石材業などの地場産業が盛んであるほか、大規模園芸産地が形成されるとともに米をはじめとする土地利用型農業が展開されている地域としています。また、近年は、北関東自動車道、首都圏中央連絡自動車道など広域交通ネットワークの整備によって企業の立地が進んでおり、東京圏に近接するという地理的優位性を活かし、新たな産業拠点を形成するとともに、定住人口・交流人口の拡大を図ることにより、地域を発展させることとされています。

筑西地方拠点都市地域基本計画は、筑西広域市町村圏と同じ地域を対象としたものであり、地域が一体となって「職・住・遊・学」機能の調和のある複合整備を推進し、魅力と活力にあふれた自立圏域としての発展を目指した計画です。地域の将来像は、「活力に満ちた、首都圏の生活・文化・産業新拠点」の形成とし、『アクティブ・筑西』をキャッチフレーズとしています。また、広域的な見地から、都市機能の集積、居住環境の整備を図るための事業を重点的に実施すべき地区として、下館駅前中央地区などが「拠点地区」に定められています。

(2) 周辺の状況

新市の周辺では、桜川市に北関東自動車道桜川筑西 I C が整備され、高規格幹線道路へのアクセスが向上しています。

さらに、平成 17 年には、秋葉原とつくば間を 45 分で結ぶ都市高速鉄道である「つくばエクスプレス」が開業し、本地域からの鉄道による東京方面へのアクセスが大きく向上しています。